

2018年度 第4回 常務委員会議事録

日時:2019年1月23日(水)18:00~20:00

場所:帝京平成大学中野キャンパス 1144 会議室

出席者:久田健一郎,高橋 修,伊藤 孝,上栗伸一,小関純一,小森次郎,中林俊明,藤原 靖
(計8名)

議 題

1. 後援依頼・転載依頼への対応について

問い合わせのあった以下の後援・転載依頼を検討した。結果,いずれも妥当と判断した。

- 1)船橋市市制 80 周年出版物(自然・考古)「船橋市のあけぼの」図版,転載許諾
- 2)東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター,国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革」,後援
- 3)NASE-Japan 2019 主催 天文分野教員研修,後援

2. 2019 年度センター試験評価委員の選出について

青木委員より提案のあった同評価委員の構成について検討した。結果,青木秀則(全体総括),根岸潔,南島正重,内記昭彦,宮嶋敏,安藤祐美,松本現,菊地信吾,比企祐介(敬称略)という体制で行って頂くこととした。

3. 地学オリンピック日本委員会発行「地球にわくわく 未来ガイド」への本学会紹介記事について

NPO 法人地学オリンピック日本委員会発行の「地球にわくわく 未来ガイド」へ,本学会も記事の掲載を依頼することとした。次号原稿〆切を目処に,広報委員会に対応頂く。

4. 無料購読会員の見直しについて

現時点で,44 件にのぼっている無料購読会員について見直しを行うこととした。まず,交換図書の実績を確認の上,次回,常務委員会で再検討を行う。

5. 国際文献社に保存されていた学会資料の扱いについて

国際文献社(高田馬場)に保存されていた学会資料を整理することとした。まず,現物を確認し,その上で,次回常務委員会で保存資料の選定を行う。

6. 学会の財政健全化について

1)『地学教育』の発行,2)新雑誌の発行,3)会員のメリットという観点から,学会の財政健全化を議論した。結果,1)については,これまで同様,年4号体制を継続し J-Stage で広く公開していくことに加え,学会ホームページからもアクセスできるよう整備する。また,全面カラー化を目指す。ただし,冊子体『地学教育』の配布は,購読会員のみ対象とする。一般会員・学生会員が冊子体を希望する場合は,オンデマンド印刷(実費)で対応する。2)新雑誌は 2019 年度より年二回を目処に刊行する。冊子体を基本とし,小~高の教員,またジオパーク関係者を主な読者に想定した内容とする。創刊号は 2019 年8月の全国大会前の発行を目指す。3)会員のメリットは,『地学教

育』へ投稿する権利、『地学教育』の早期講読，冊子体『地学教育』の実費配布，新雑誌の無料配布，新雑誌へ投稿する権利，全国大会参加費の優遇措置等確保する，を常務委員会案とすることとした。以上，大きな変更点を含む内容となっており，会員へ向け，『地学教育』等で学会の財政の現状，今後のビジョンを踏まえ，会員への広報を行っていく。適用に当たっては，次回総会ではかる。

7. 会勢について

入退会の状況，財務状況等，会勢を確認した。入退会状況は以下のとおりである。

入会者・学生会員 岩井珠生(東京大学大学院)

入会者・正会員 井山慶信(広島国際大学)，金谷 晋(大子町立南中学校)，雑色啓晴(三田国際学園中学高等学校)，田中浩紀(千葉県立千城台高等学校)

入会者・シニア会員 飯島 力

退会者 市川 徹

報告・話題提供

1. 2018年12月実施の台湾巡検について

久田会長より，2018年度の本学会海外巡検(台湾)についての話題提供があった。台湾側のご尽力により大盛況であったこと，全員無事で帰国できたことに加え，当初の参加費10万円より大幅に支出を抑えられ返金できたという報告があった。

次回，2018年度第3回常務委員会は，2019年3月14日(水)，国際文献社パブリッシングセンター会議室にて開催予定。